P18

21世紀・アイヌ文化伝承の森における伝統的利用草本植物の自生状況について

平取町アイヌ施策推進課　吉原　秀喜
（株）平取町アイヌ文化振興公社　木村　美咲
日高北部森林管理署　大室　諒太　武田　恵

取組の背景・目的

H25年4月に北海道森林管理局・平取町・平取アイヌ協会との三者で締結された、「21世紀・アイヌ文化伝承の森再生計画～コタンコ゚カムイの森づくり」の協定に基づき、平取町アベツ国有林においてアイヌ文化伝承で利用される広葉樹を中心に、調査や管理が共同で行われてきました。

アイヌ文化に用いられる植物は、木本だけでなく草本についても多く利用されていますが、国有林において草本を対象とした伝統的利用植物の調査や管理については本格的には行われておらず、持続的にそれらの草本植物を利用するためには、自生状況や資源量等の基礎データの収集が不可欠です。

本発表では、同国有林内での広域における伝統的利用草本植物の資源量と自生状況と、シカ防護柵内外での草本植物の自生状況の違いについて報告します。

平取町アイヌ文化振興公社との広葉樹の生育調査（R3年9月）

調査方法

A.広域における伝統的利用草本植物の資源量と自生状況について

草本植物が自生しやすい環境と思われる、4つの林班の沢沿い計35地点において、植物の芽吹く4月から5月の間に、伝統的利用草本植物の**自生状況の把握**と**資源量（単位面積当たり個体数）の計測**を行いました。

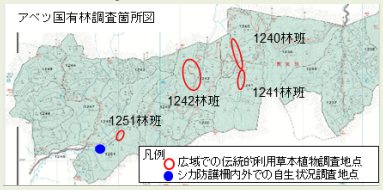

図1. アベツ国有林調査位置図

平取町アイヌ文化振興公社による伝統的利用植物の自生状況の把握と資源量の計測（R4年5月）

B. シカ防護柵内外での草本植物の自生状況の違いについて

シカの食害による植生の違いなどを調べるため、シカ防護柵内0.2haのエリアに8か所、柵外のエリアに5か所、1m×1mのプロットを計13か所設置しました。それぞれのエリアにおいて5月から9月の5か月の間に月1回**植生調査**を行いました。

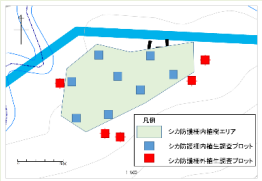

図2. 植生調査位置図

植生調査（R4年6月）

結果

A. 資源量及び自生状況について（表1）

伝統的利用草本植物が計13種確認しました。自生はしているものの、シカの食害により、全体的に利用できるほどの資源量は確認されませんでした。

B. 植生調査について（表2）

草本植物を計39種確認しました。そのうち沙流地域のアイヌの人々が利用している伝統的利用草本植物は15種でした。

B. シカの食害による植生の違いについて（表2）

確認した39種のうち、8種はシカ柵内にのみ、10種はシカ柵外にのみ確認しました。

表1. 資源量調査の結果
※　沙流地域ではアイヌ語由来の名前が無い植物です。

伝統的利用草本植物	アイヌ語	自生箇所数	1地点あたりの資源量の最大値(本数/㎡)
アキタブキ	コロコニ	10	1
エゾイラクサ	イピシシ	6	44
オオウバユリ	トゥレㇷ゚	7	6
カタクリ	エッケリュリム	3	1
ギョウジャニンニク	ㇷ゚クサ	5	50
クサソテツ	ソㇺマ	10	50
ニリンソウ	ㇷ゚クサキナ	4	5
ハンゴンソウ	オロムン	3	1
フクジュソウ	キムンクナウ	1	1
フッキソウ	ユㇰトパキナ	1	1
ミツバ	ミチバ　※	2	1
モミジガサ	ー　※	10	7
ヨブスマソウ	レックッタラ	12	1

フッキソウ

ヨブスマソウ

モミジガサ

アキタブキ

確認された伝統的利用草本植物

表2. 植生調査で確認した草本植物一覧
※1　沙流地域において、ササ類の伝統的利用は限定的で使用頻度が少ないため、今回の伝統的利用草本植物から除いています。
※2　沙流地域ではアイヌ語由来の名前が無い植物です。

植物名	アイヌ語	沙流地域のアイヌの利用方法 食用	薬用	儀礼	生活用具	柵内で確認したプロットの数 5月	6月	7月	8月	9月	柵外で確認したプロットの数 5月	6月	7月	8月	9月
ミヤコザサ	フッタㇺ ※1			●		8	8	8	8	8	5	4	5	5	5
エゾイラクサ	イピシシ		●		●	5	8	8	7	8	4	5	5	4	4
フッキソウ	ユㇰトパキナ		●			5	4	7	7	7	4	4	3	4	4
セントウソウ						3	3	1	5	5	5	4	5	5	4
ミツバ	ミチバ　※2	●				4	2	3	2	1	2	4	4	3	4
ヤマイヌワラビ						3	5	4	2	1	1	4	2	2	1
ヨブスマソウ	レックッタラ				●	1	1	2	1	1	3	2	2	2	1
ヨツバムグラ							1	2	2	1	2	3	4	2	3
ミヤマシラスゲ						6	6	6	7	7		1	3	3	
ミヤマベニシダ						2	1	1	1		3	1	2	2	1
アキタブキ	コロコニ	●	●		●	2	2	2	1		1	2	1	1	1
コンロンソウ						7	3	4	4	3	2	1			
モミジガサ	ー　※2	●				3	3	3	3	3					1
コナスビ										1		2	2	3	4
ヌカキビ						1	1				3		1	1	1
ミズヒキ						1	1	1	1			1	1	1	1
イッポンワラビ							3	2					2	1	
クルマムグラ							2						2		3
ミヤマセンキュウ						4					4				
ニリンソウ	ㇷ゚クサキナ	●	●			3					3				
ユキザサ	ペㇰロ	●	●			1	1		1		1				
エゾエンゴサク	トマ	●				4									
スギナ	オタシブシブ	●	●			1	1	1	1	1					
セイタカアワダチソウ						1		1	1						
ヨモギ	ノヤ	●	●	●		1	1	1	1						
ミゾシダ						1			1	1					
エンレイソウ	ケンネキナエマウリ	●				1	1								
ハンゴンソウ	オロムン	●					1	1							
カノフメソウ						1									
マルバネコノメソウ											1	2	1	1	
クルマバソウ											4	1	2	3	
アズマイチゲ											3				
クサソテツ	ソㇺマ	●		●							2	1			
ヤグルマソウ												3			
チドメグサ														1	1
コウライテンナンショウ	ラウラウ	●	●								1				1
フルネコノメソウ											1				
ミズ														1	
ミヤマハコベ											1				

今後の方針と展望

アベツ国有林内において、伝統的利用草本植物が自生していたものの、全体的にシカ食害による影響が見られ、**利用できる資源量ではなかった**です。

今後の方針として、**シカ防護柵内へ伝統的利用草本植物を移植し保護・育成**の試みを行うことで、資源量確保の方策について検討してまいります。

ニリンソウ等の移植の試み（R4年5月）